

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 15 日現在

機関番号：32634

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24320009

研究課題名(和文)中国道教の地理的イメージと宗教的ネットワークに関する総合的調査と研究

研究課題名(英文)A Comprehensive Study of Daoist Geographic image and its Related Network of Religious Facilities

研究代表者

土屋 昌明(tsuchiya, masaaki)

専修大学・経済学部・教授

研究者番号：80249268

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、道教で洞天福地とされる山岳に対する信仰および、そこにある道観との関係を考察し、山岳でおこなわれた道教相互のネットワークおよびその歴史的展開を研究した。期間中に十大洞天ほかに対する基礎的な現地調査をすませ、その調査の整理と文献研究との対照をおこなった。その成果として、『洞天福地研究』第4・5・6号(計3冊、312頁)を発行した。第4号では5本の論文と2本の翻訳、第5号でも5本の論文と2本の翻訳、第6号では4本の論文と1本の翻訳を発表した。その他に、日本とフランスの研究者による12本の論文をまとめて、『道教の聖地と地方神』と題して出版した。

研究成果の概要(英文)：We examined the relationship between mountain worship (belief in grottoe heavens) and local Daoism and surveyed the network of Daoist sites located on mountains. We also studied the historical development of this network. We surveyed the ten main locations of grottoe heavens and other small grottoe heavens and studied their historical development. We compiled data on the present state of their Daoist monasteries and their local geographic features such as the overall landscape and caves linked to belief in the grotto heavens. Some of our findings have already been published in the academic journal Dohten-fukuchi kenkyu No.4, 5 and 6, composed of fourteen academic articles and five translations. And we also have published the book titled Daoist Sacred Sites and Local Gods, composed of twelve articles in coordination with French scholars. Based on our research, the compilation of a historical narrative for the development of the concept of grotto heavens has become possible.

研究分野：中国哲学・思想

キーワード：道教 宗教思想 山岳信仰 洞天 神仙思想 民間信仰 景観 イメージ

### 1. 研究開始当初の背景

洞天福地思想とは、特定の山中洞窟が地上と神仙界との通路となっており、その奥に神仙が住む世界が存在し、しかも洞天は中国各地に存在して相互に往来可能なネットワークを形成している、という信仰である。洞天福地思想は道教という宗教の構成要素の一つである。道教に関する文献研究やフィールドワークを進める中で、従来注意されてこなかった課題として、各地方の道教のローカル性と、それを結ぶネットワークのあり方、という問題が見いだされ、洞天思想の研究の必要性が認識された。

道教は広大な中国でおこなわれたため、各地の道教における性格の相違に注意を向ける必要がある。道教史の初期から発展時期（後漢から南北時代）では、地域的なとらえ方が従来の研究でもおこなわれてきた。しかしその後も、各地で新たに興起・発展する道教があったし、各地の道教にも地域間の特徴の違いがあった。こうした地域の道教については、教派教団の歴史として研究されても、地域と各地を相互にふまえた検討は、まだ不十分だった。

道教の地域的特徴を保持する拠点は、各地に存在する道観だが、それは孤立して存在するのではなく、相互に情報交換するネットワークを形成していた。文献に窺えるそのような状況は、道教的な地理イメージという形で語られている。地域間の連絡は洞天を介しておこなわれると観念されていた。

本研究開始当初には、このような研究課題を究明する必要があるがあった。

### 2. 研究の目的

洞天福地の景観、分布及び相互のネットワークの解明：現地調査によって、各地の洞天福地の地理景観を観察し、そこが聖地とされた要因を検討する。

洞天は、道教の実践者が修道する場所でもある。それゆえ、洞天の存在する名山の自然景観に対しては、道教思想的な解釈がおこなわれた。その名山の自然環境や採取される動物や植物や鉱物は、修道者の養生術・煉丹術に使用される。したがって研究者は、このような現地の景観や自然環境について認識し、歴史的変遷を考慮すべきである。

洞天の代表とされる「十大洞天」「三十六小洞天」は、8世紀までに整理され、中国各地の道教聖地とされた。『雲笈七籤』巻27の司馬承禎『天地宮府図』には、十大洞天と三十六洞天が示されている。本研究では、そのうち十大洞天と小洞天のいくつかに対して現地調査をおこなう。

洞天思想史と洞天の宗教空間の解明：現地調査と文献研究をもとに、洞天のある地域の宗教空間を構成する要素を検討する。これまでの研究によって、洞天は現地の宗教空間を独占しているわけではなく、地方神と共存していることがわかってきた。したがって、

道教と地方神への信仰を包括的にとらえるべきである。この観点から、当該の宗教空間の道観や廟などの宗教施設、道士などの宗教職能者とその儀礼伝統、地方神の信仰圏、道教と地方神に対する信仰との関係などを明らかにする。

### 3. 研究の方法

本研究は、洞天福地とされた宗教空間を対象とし、現地調査と文献調査をおこなって資料を収集・分析する。研究期間内に異なる分野の研究者が参加する現地調査をおこない、現地の景観や自然環境を観察するとともに、文献資料・実物資料の写真撮影や収集をする。収集した資料は集約して整理・分析し、定期的な研究会を実施して共有する。文献研究としては、道教経典や民間宗教経巻のほか、地方志、碑刻資料などを用いる。研究成果は、国内外の学会で口頭・論文発表するほか、報告書として印刷し、インターネット上のホームページでも発表する。また、国際化をはかるために国際シンポジウムを実施する。

現地調査：現地調査は研究計画全体の中で計3回、夏期休暇を用いてそれぞれ10日間をめどに実施。現地での主たる調査項目は以下の通り。

- ・道観と民間信仰の廟および聖地の所在・位置関係。
  - ・洞窟内部の構造・聖地としての特徴の観察。
  - ・道観と道士の宗教活動の現状と地方神の信仰との関連。
  - ・道観と民間信仰の廟の歴史に関する実物資料の収集。
  - ・現地のインフォーマントへのインタビューによる人と物の往来や巡礼状況の聞き取り。
- 現地調査の実施にあたっては、研究協力者もまじえて調査班を組織する。

文献研究：現地調査対象について、各種の歴史文献・碑刻文献を渉猟して資料集を作成し、整理と分析を加える。それとともに、これまでの調査・研究で得た洞天の資料・研究と対照させる。また、これまでの各洞天に対する文献調査での不足を補い、全体として系統化する。

以上の調査・研究は従来の調査・研究に新たな調査を加えて総合し系統化する作業であり、洞天に関わる問題を総論的に概観することを目標とする。

定期的な研究会の実施：年に2回前期と後期に、メンバー全員が参加する研究会を開催し、研究成果や進捗状況を報告し、情報を共有する。

国際討論会の開催：フランスの研究者との国際討論会を開催して、本研究の国際化を進める。フランス側は実践研究学院のVincent Goossaert教授が幹事にあたる。本討論会は、日本の研究者とフランス在住の研究者によって構成し、使用言語は英語か中国語、その他に対論者を双方から出す形式でおこなう。日仏相互の発表者は6名とする。

報告書の作成：研究成果を年に1度、論文ないし研究資料として雑誌形態の印刷物として発刊し、関係研究者に配布する。また、インターネットのホームページ上にも掲出する。

#### 4. 研究成果

第一大洞天の王屋山については、土屋昌明「第一大洞天王屋山の成立」<sup>1)</sup>、李白と司馬承禎の洞天思想<sup>2)</sup>、山下一夫「王屋山と無生老母」<sup>3)</sup>、王屋山の伏虎降龍説話<sup>4)</sup>、近現代の河南における魏華存説話<sup>5)</sup>などの論文成果を出した。王屋山は洞天思想では第一大洞天とされたが、これには王屋山の麓で修道した魏華存の宗教実践と思想が関連しており、茅山の上清派道教がこれを尊重した。その後、唐の玄宗は王屋山での道教祭祀を重視し、司馬承禎をここに住持させ、唐の国家鎮護と関連させた。第一大洞天への重視は北宋まで続くが、金元時期以降、全真教がここで活動することで、洞天としての意義は下落する。清代までに、民間の無生老母信仰がこの地で隆盛するようになり、現在に至っている。それとともに、洞天思想からは独立した魏華存信仰がこの地域でおこなわれた。この間、王屋山は第一大洞天としての意味を擁しながら、民間信仰の聖地となった。

第八大洞天の茅山については、廣瀬直記「蘇州句容洞天福地調査記録」、土屋昌明「華陽洞天北門の認識から第三十二小洞天良常山洞へ」、陶金「茅山宗教空間の秩序・歴史的発展のコンテクストの探究と再建」<sup>6)</sup>(土屋訳)、趙益「句曲洞天 四世紀上清道教の度災の府」<sup>7)</sup>(廣瀬訳)、ヴァンサン・ゴースール「近代江南における三茅君」<sup>8)</sup>(森訳)などの論文成果を出した。茅山では、5世紀に洞天思想が登場する以前、茅山の神たる茅君信仰がおこなわれていた。それが洞天思想によって再解釈され、中国の他の聖地と関連づけられた。唐代には、国家の道教における最重要の聖地とされ、道教儀礼がおこなわれた。それと並行して、茅君信仰は民間信仰としても茅山で崇敬され続けた。また金元時期には、茅山の東部に全真教が入った。こうした複合した状況は民国時期まで続いた。民国時期には江南各地の茅君信仰と結びついて、多くの巡礼者を集める一大聖地として隆盛した。その後、日中戦争と内戦で宗教施設は破壊され、現在、復興が進められている。

この2カ所は、これまでの調査によって、洞天思想の初期から密接な関係を持っていたが、歴史的には異なる様態を示すようになるため、ネットワークをそなえた比較研究の対象となりうるということが認識された。

第七大洞天の羅浮山については、鈴木健郎「羅浮山の調査報告」、志賀市子「近代の羅浮山と嶺南道教」、大西和彦「16世紀ベトナムにおける道教の展開」などの論文成果を出した。とくに、羅浮山は洞天として最も南部にあり、ベトナムとの関連が想定される。土

屋昌明「玄宗による創業神話の反復と道教の新羅への伝播」、同「黄泉国と道教の洞天思想」において、洞天思想が唐代の朝鮮半島(新羅)・日本に伝播したことを論じたのとあわせて、洞天思想が東アジア諸地域に伝播し、各地の文化要素の一つになっていることが明らかになった。

その他、いくつかの洞天に関する論文成果を出したほか、フランスの研究者との共同による討論の成果をまとめた『道教の聖地と地方神』(JSPS 科研費 15HP5019)を東方書店から出版した。

#### 5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 28 件)

1. 土屋昌明、第一大洞天王屋山の成立、『道教の聖地と地方神』、査読無、2016、133-159

2. 土屋昌明、黄泉国と道教の洞天思想、古事記年報、査読無、58号、2016、1-20

3. 土屋昌明、李白と司馬承禎の洞天思想、洞天福地研究、査読無、第6号、2016、76-87

4. 土屋昌明、紫柏山と道教、洞天福地研究、査読無、第6号、2016、88-94

5. 横手裕、左命山三上司山続考、道教の聖地と地方神、査読無、2016、173-190

6. 山下一夫、王屋山と無生老母、道教の聖地と地方神、査読無、2016、45-70

7. 山下一夫、近現代の河南における魏華存説話、洞天福地研究、査読無、2016、第6号、23-37

8. 大形徹、南岳衡山と洞天福地 既是五岳又是洞天、道教の聖地と地方神、査読無、2016、191-209

9. 二階堂善弘、武当山・竜虎山・佘山祖廟の元帥神について、道教の聖地と地方神、査読無、2016、33-44

10. 土屋昌明、玄宗による創業神話の反復と道教の新羅への伝播、古代東ユーラシア研究センター年報、査読無、第1号、2015、69-84

11. 大形徹、中国の風水思想と洞天福地、エコ・フィロソフィ、査読無、第10号、2015、27-39

12. 大形徹、『列仙傳』にみる道德的仙人の萌芽、人文学論集、査読無、第33集、2015、29-38

13. 二階堂善弘、明代江南における伽藍神、関西大学東西学術研究所紀要、査読有、48号、

14. 二階堂善弘、東南アジアの玄天上帝廟、東アジア文化交渉研究、査読無、8号、2015、163 - 169
15. 土屋昌明、靈宝經十二部「本文」の文献の問題から道教の文字説へ、洞天福地研究、査読無、第5号、2014、51 - 80
16. 土屋昌明、洞天思想の東アジアへの流伝と平安時代の漢詩文 『本朝文粹』を中心に、王朝文学を彩る軌跡、査読無、2014、371 - 387
17. 鈴木健郎、羅浮山の調査の概要、洞天福地研究、査読無、第5号、2014、81 - 94
18. 横手裕、明清時代的“経 lu 三山”、中日学者中国古代史論壇文集、査読無、第5回、2014、298 - 318
19. 二階堂善弘、関帝信仰と周倉、関西大学東西学術研究所紀要、査読有、第47号、2014、71 - 85
20. 二階堂善弘、道教における武神の発展 - 元帥神を中心に -、アジア遊学、査読無、第173号、2014、118 - 126
21. 二階堂善弘、二眼の二郎神、東アジア文化交渉研究、査読無、第7号、2014、217 - 228
22. 山下一夫、明清時期三清形象的転変與発展、研究新視界：媽祖與華人民間信仰国際研討会論文集、査読無、2014、193 - 222
23. 土屋昌明、華陽洞天北門の認識から第三十二小洞天良常山洞へ、洞天福地研究、査読無、第4号、2013、63 - 68
24. 土屋昌明、道教の新羅東伝と長安の道観 - 「皇甫奉諫墓誌」を中心に、東方宗教、査読有、第122号、2013、1 - 33
25. 土屋昌明、長安の太清観の道士とその道教 史崇玄と張万福を中心に、専修大学人文科学年報、査読無、第43号、2013、109 - 136
26. 鈴木健郎、丹道在日本的实践性展開：宗教・武術・医術、丹道実践：近代人文與相遇の養生文化、査読無、2013、151 - 170
27. 二階堂善弘、二十四諸天と二十八部衆、東アジア文化交渉研究、査読無、第6号、2013、229 - 236
28. 二階堂善弘、祠山張王信仰の発展と衰退、東方宗教、査読有、122号、2013、46 - 64

〔学会発表〕(計 6 件)

1. 土屋昌明、李白与司馬承禎的洞天思想、「道教与文学」国際学術検討会、香港、浸会大学、2015年12月9日
2. 二階堂善弘、『水滸全伝』与華光大帝信仰、「道教与文学」国際学術検討会、香港、浸会大学、2015年12月9日
3. 土屋昌明、洞天思想と自然環境の問題、東京、東洋大学エコ・フィロソフィ学際研究イニシアティブ、2015年11月14日
4. 二階堂善弘、日中寺院における伽藍神の探究、ICIS シンポジウム「文化交渉学のパスベクティブ」、大阪、関西大学、2015年7月19日
5. 二階堂善弘、禹王と中国の水神信仰、東アジア文化交渉学会第七回大会、神奈川県開成町、2015年5月9日
6. 土屋昌明、唐の玄宗の道教とその東伝をめぐる諸問題、東京、明治大学、東アジア石刻研究会、2014年07月26日

〔図書〕(計 3 件)

1. 土屋昌明ほか、東方書店、道教の聖地と地方神、2016、287
2. 横手裕、山川出版社、道教の歴史、2015、350
3. 大形徹、東方書店、『胎産書・雜禁方・天下至道談・合陰陽方・十問』、2015、424

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://kyamashita.jpn.org/doten/>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

土屋昌明 (TSUCHIYA Masaaki)

専修大学, 経済学部, 教授

研究者番号: 80249268

### (2) 研究分担者

横手 裕 (YOKOTE Yutaka)

東京大学, 人文社会系研究科, 教授

研究者番号: 10240201

山下一夫 (YAMASHITA Kazuo)

慶應義塾大学, 理工学部, 准教授

研究者番号: 20383383

鈴木健郎 (SUZUKI Takeo)

専修大学, 商学部, 准教授

研究者番号: 40439518

大形徹 (OHGATA Tohru)

大阪府立大学大学院, 人間社会学研究科,  
教授

研究者番号: 60152063

二階堂善弘 (NIKAIDO Yoshihiro)

関西大学, 文学部, 教授

研究者番号: 70292258

### (3) 連携研究者

### (4) 研究協力者

王宗昱 (WANG Zongyu)

李松 (LI Song)

樊光春 (FAN Guangchun)

普慧 (PU hui)

趙益 (ZHAO Yi)

丸山宏 (MARUYAMA Hiroshi)

Kristofer M. Schipper

Vincent Goossaert

方玲 (FANG Ling)

Isabelle Ang

Pierre Marsone

潘君亮 (PAN Junliang)

三浦國雄 (MIURA Kunio)

志賀市子 (SHIGA Yichiko)

森由利亜 (MORI Yuria)

森瑞枝 (MORI Mizue)

酒井規史 (SAKAI Hirofumi)

廣瀬直記 (HIROSE Naoki)

二ノ宮聡 (NINOMIYA Satoshi)

趙婧雯 (ZHAO Qingwen)

陶金 (TAO Jin)

雷聞 (LEI Wen)

大西和彦 (OHNISHI Kazuhiko)